

小國神社について

小國神社は浜松市の中心部から北西にある神社で、歴史書には早くも 840 年に記載されています。小國神社は手つかずの自然界と人間界との中間に位置していると考えられています。太い杉が何本も並ぶ広く長い参道を抜けると、その突き当たりに神社の建物があります。川が流れ、神社の奥には深い森があり、広い意味での「庭園」として境内を囲んでいます。ここは、神社を守る自然を人間が崇拝するための場所なのです。小國神社では数えきれないほどの神々を祀っていますが、ご祭神は大国主命です。大国主命は心優しく、恵みをもたらす神とされ、日本の神話、伝説、言い伝えを 712 年に編纂した『古事記（古代の出来事の記録という意味）』にも登場します。

小國神社の神職は、例年 400 以上の祭祀や催しを行い、世界平和、天下泰平、五穀豊穰を祈ります。一般の人々はこの数多くある行事を見物したり、行事に参加したりできます。